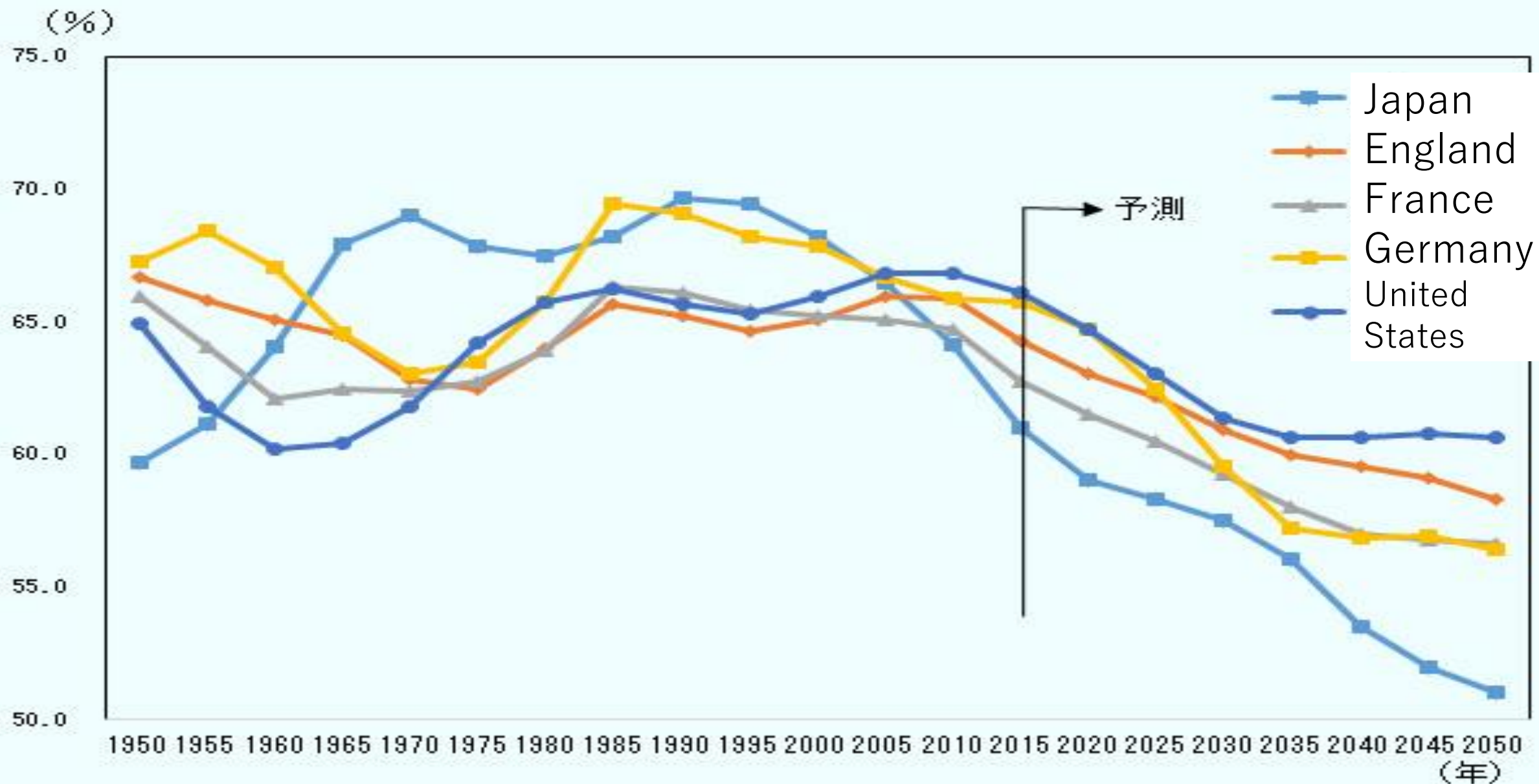


# 持続的成長実現に向けた アジアの課題

における日本の

広島文教大学 人間科学部  
グローバルコミュニケーション学科  
岩下康子

# Changes in working-age population :15-64 years



# 持続的成長

- 欧米の変化：世界のグローバリズム

  - フランス型同化：移民にもフランス人になることを求める

  - イギリス型多文化主義：自由放任主義

  - ドイツ型統合：自らの国の文化を維持したまま、社会の一員として社会生活を送る

「西洋の自死」 「多文化主義」の失敗？

- 人口変動は、世界の構図を塗り替える

# 2030年世界経済をリードする国10か国

- 中国
- アメリカ

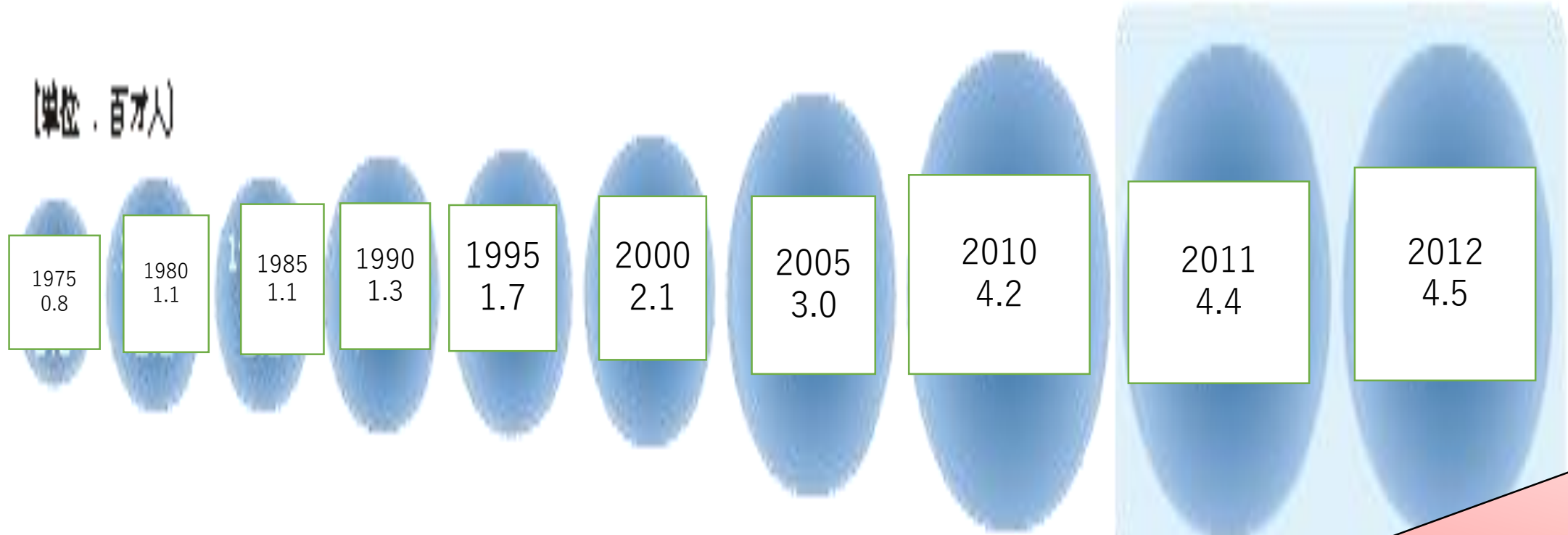


- 日本
- ドイツ
- ロシア
- ブラジル
- メキシコ
- フランス

日本の上位に2か国アジアの国が上がっています。どこでしょう？

インド・インドネシア

# 世界の留学生数の推移 1975～2012年



2025年には750万人に？！

出典)

OECD and UNESCO Institute for Statistics 出所：OECD, Education at a Glance 2014

# アメリカの大学における留学生の動向 (2017年)

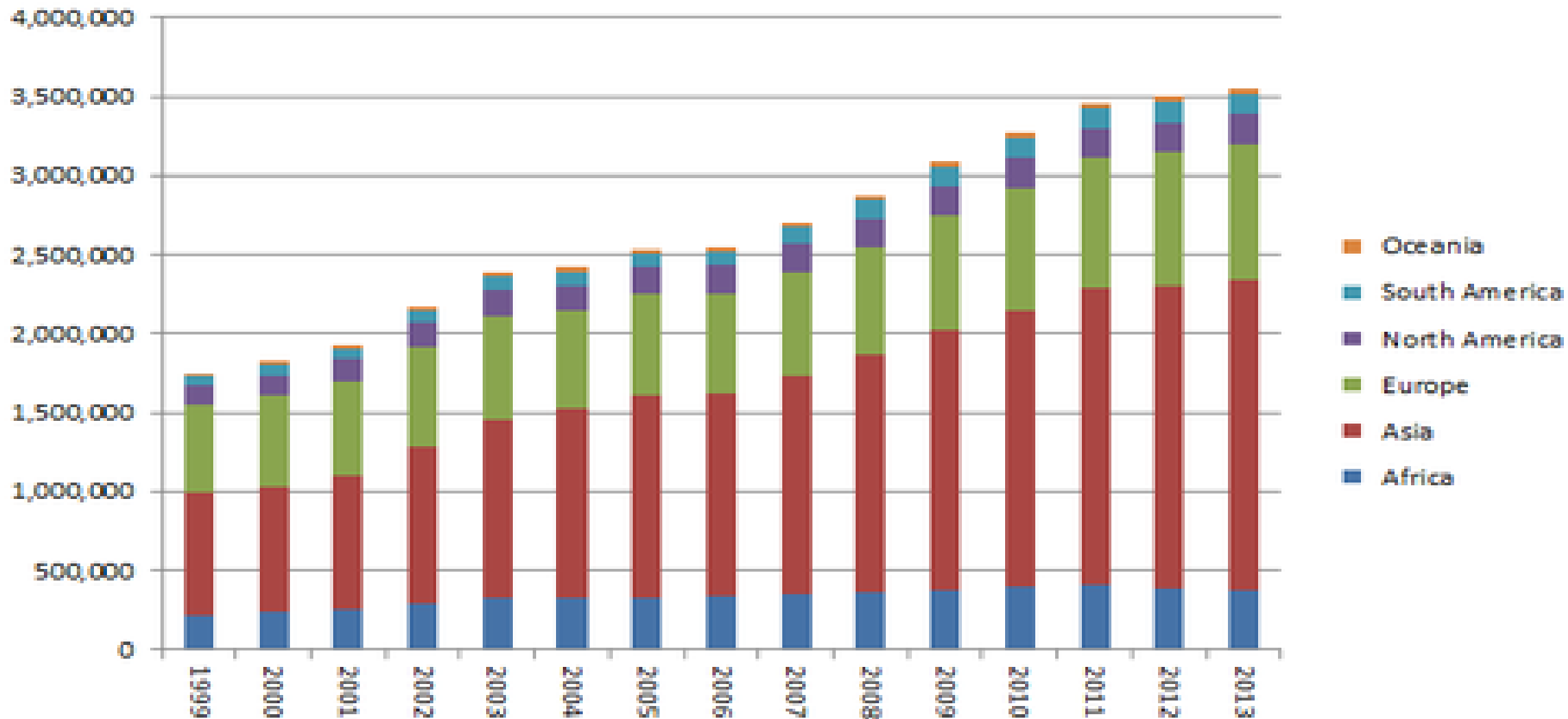
- 学生の出身国 約200か国 100万人
- アジアからの留学生 70%を占める
- アジア系は優秀すぎるがゆえに、人格点を下げられて合格レベルを引き下げられている？という記事も！？
- テロ事件以降、イスラム圏の排除も
- 送り出し国：中国 インド、韓国 サウジアラビア カナダ  
ベトナム 台湾 日本 ブラジル
- 男女比 男 56% 女 44%

# 外国人留学生受け入れ主要国

## 2016年

留学先	およその数	留学先	およその数
USA	100万人	カナダ	20万人
イギリス	41万人	中国	20万人
オーストラリア	30万人	日本	16万人
フランス	25万人	マレーシア	12万人
ドイツ	25万人	イタリア	9万人
ロシア	20万人		

# 世界の海外留学者数 地域別





# 世界の留学生送りだし主要国 2013年

UNESCO調べ

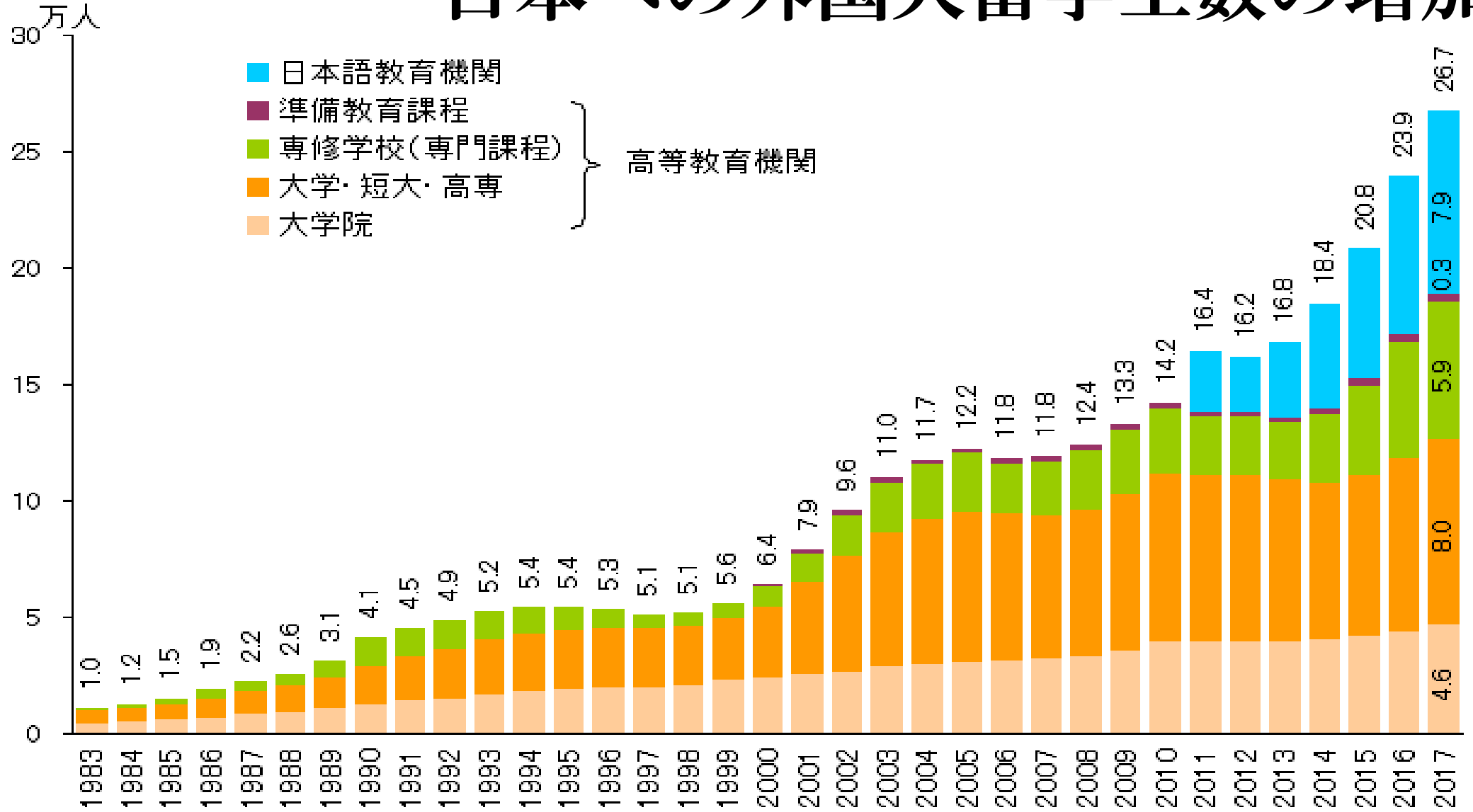
国名	人数
1.中国	71万人
2.インド	18万人
3.ドイツ	12万人
4.韓国	11.5万人
5.フランス	8.4万人
6.カザフスタン	7.5万人
7.サウジアラビア	7.3万人
8.ナイジェリア	5.2万人
9.ベトナム	5.3万人
10.ウクライナ	5万人

11. アメリカ	
12. イタリア	
13. マレーシア	
14. ロシア	
37. 日本	3.2万人

# 留学生増の背景

- アジア各国の経済力向上
- 人口増：私費留学生の増加
- アジアは最大の留学生市場になる
- 学生がよりよい教育と将来の展望を求めて越境
- 先進諸国の少子化と高度人材獲得競争

# 日本への外国人留学生数の増加



# 留学生30万人計画

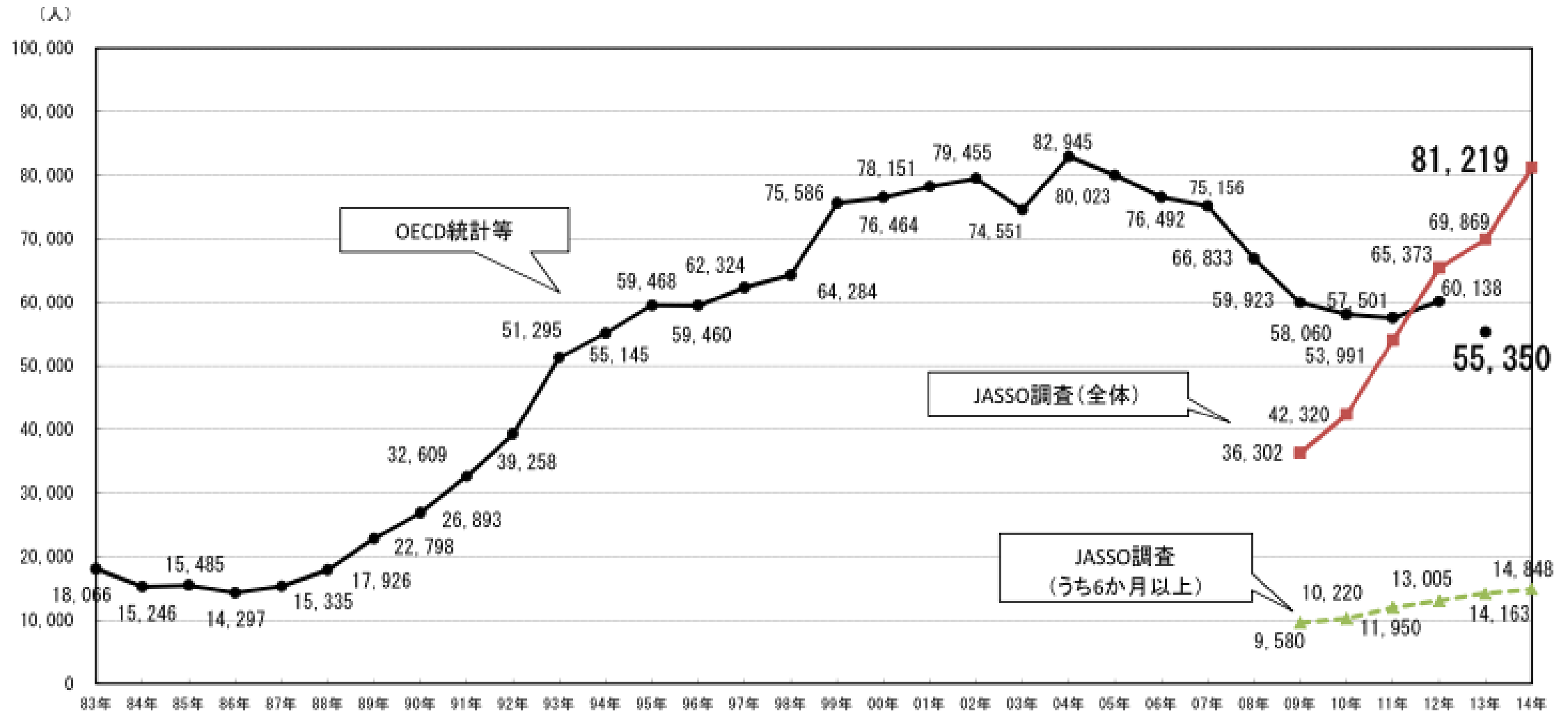
- 日本留学への誘い
  - 積極的な情報発信・海外における日本語教育の充実
- 入試、入学、入国として入り口の改善
  - 入学許可の推進・各種手続きの簡素化・入国審査の簡素化
- 大学等のグローバル化の推進
  - 国際化拠点大学・英語ONLYコースの設置・大学の組織体制
- 受け入れ環境づくり
  - 宿舎の提供・国費留学制度・国内日本語教育の充実
- 卒業後の社会の受け入れ態勢
  - 就職支援や起業支援・在留資格の明確化

# 留学生30万人計画

- 2017年時点、約27万人の留学生
- 留学生の9割以上がアジア出身者：ローカルな留学先
- 留学生の日本での就職は約30%
- 日本語学校で学ぶ留学生の就労実態
- 東京福祉大学に象徴：所在不明の留学生・助成金の不正受給  
1600人が不明
- 留学生の2極化 高度な教育を目標とする  
就労ありきの日本語学習

# 日本人の海外留学状況

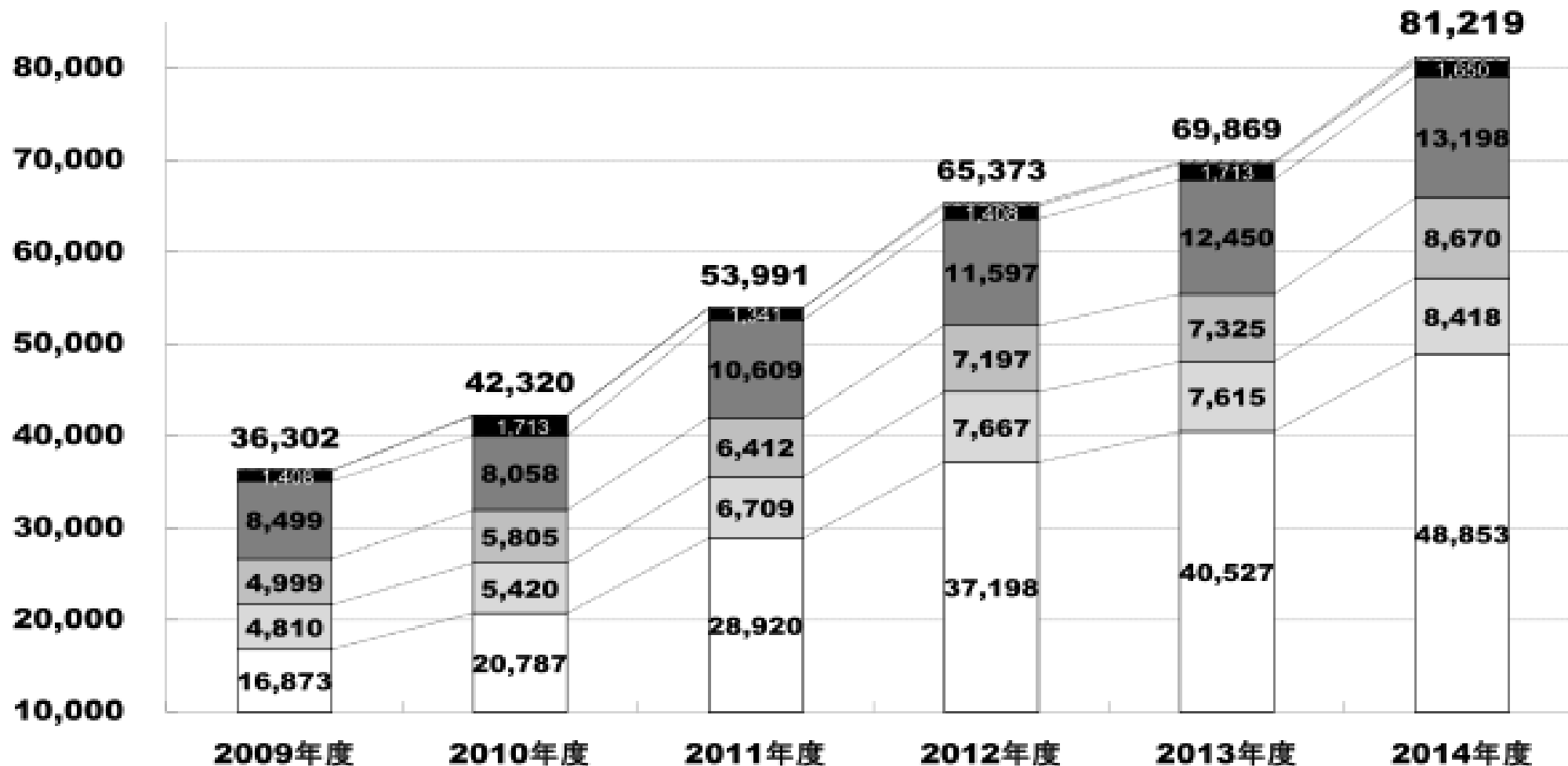
ユネスコ統計局、OECD、IIE等における統計、並びに(独)日本学生支援機構の調査による日本人の海外留学者数の推移



(出典) OECD統計等: OECD「Education at a Glance」、ユネスコ統計局、IIE「Open Doors」、中国教育部、台湾教育部  
 JASSO調査: 外国人留学生在籍状況調査((独)日本学生支援機構)

# 語学留学を含めた日本人大学生の留学

(人)



□ 1か月未満 □ 1か月以上～3か月未満 □ 3か月以上～6か月未満 ■ 6か月以上～1年未満 ■ 1年以上 □ 不明

## 大学等の海外留学支援制度（国費による支援） 90億円 2018年

○ 大学院学位取得型	【H28】	【H29】	【H30】
	270人⇒	252人⇒	252人
○ 学部学位取得型	【H29】	【H30】	
	45人	⇒	78人
○ 協定派遣型	【H28】	【H29】	【H30】
	23,000人 ⇒	22,000人	⇒ 24,000人
○ 協定受入型	【H28】	【H29】	【H30】
	6,000人⇒	5,000人⇒	5,650人

## 官民協働海外留学支援制度

～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～  
(民間資金による支援)



# 日本：短期海外留学が増えている

- 日本人学生の内向き傾向に風穴
- 日本の大学等に在籍者の約8割は6か月未満  
(かつ約6割は1か月未満)の短期留学
- 企業ニーズとはミスマッチ 企業は半年以上を求める傾向  
短期留学が、グローバル人材の3要素の向上に効果を持つか、  
十分な検証が必要
- 学生の抱える諸問題：経済的な問題
- 英語の必要性から語学留学が多い（短期）
- アジアへの渡航が少しずつ増えている

# 日本の強み・弱み

## 強

- 高等教育レベルが高い
- 金銭的負担が他の先進国より低いーアルバイトが可能
- 治安が良い・衛生的な環境が整っている

## 弱

- 言語課題
- 途上国の人にとっては金銭的負担は大
- 日本経済の鈍化
- 日本の大学の低評価

# 日本の留学生政策

- 留学生送りだし
- 留学生受け入れ      どちらもふるわない
- 世界大学ランキングにおいても、国際化という面で評価が低い

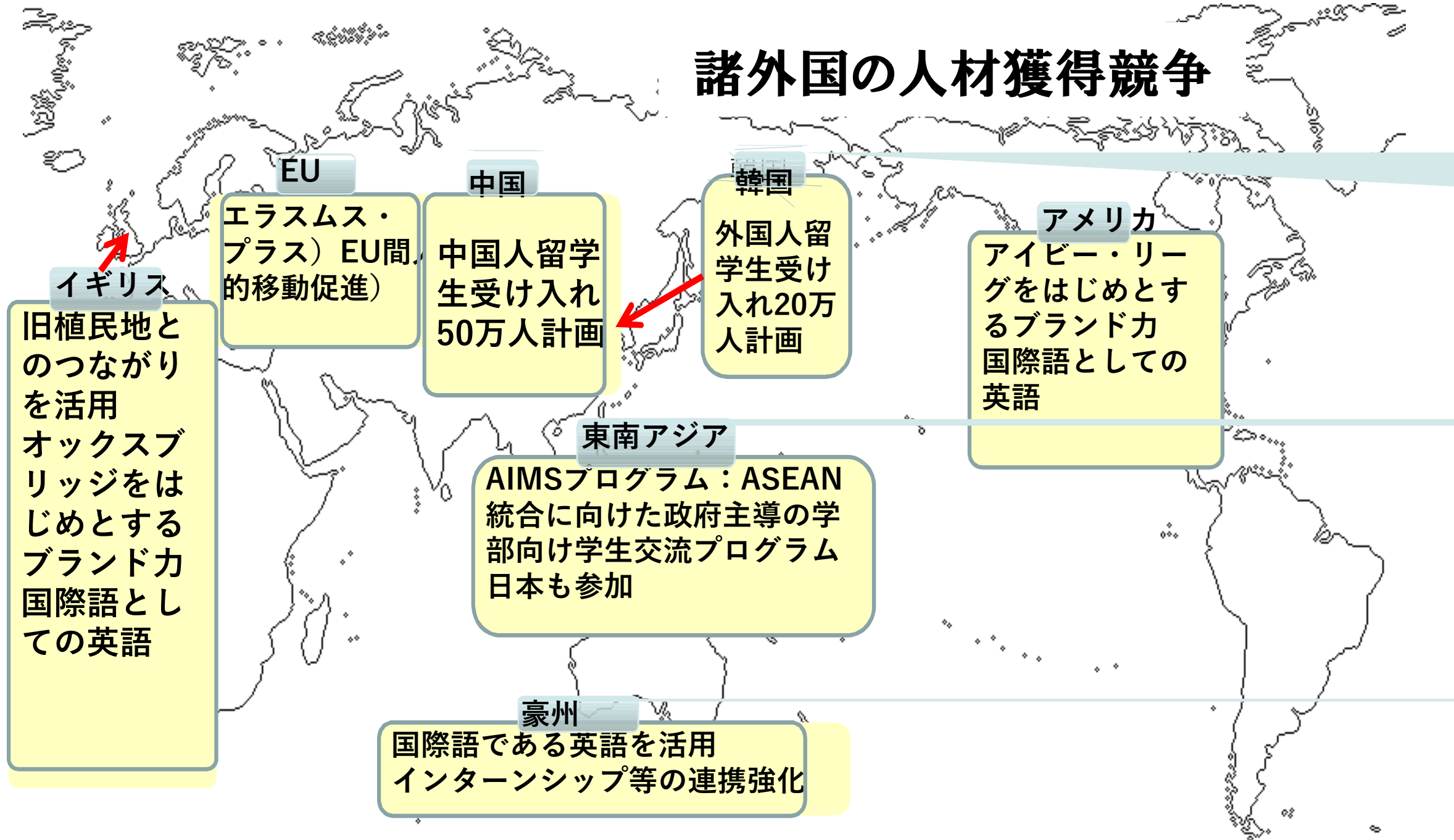
英語で授業を行える大学が少ない

英語で取得できる学位がない～社会でも生かせない

# アジア 留学生政策

- 政治的・経済的国家戦略
- 私費留学など民間セクターを巻き込んだ留学大衆化
- トランスナショナル・プログラムの普及と留学家以外の多様化
  
- 韓国：留学の低年齢化もおこっている  
留学生受け入れ20万人

# 諸外国の人材獲得競争



# 留学生の世界的な誘致競争は始まっている

- アジアの教育ハブ化の動き
- シンガポール：2015年 東京大学に次いで25位だったのが  
2019年 22位 精華大学（中国）  
23位 シンガポール国立大学  
31位 北京大学  
36位 香港大学  
42位 東京大学
- 英語が公用語 外国人にあふれる生活環境 東洋と西洋の融合  
を目指して、留学生誘致を繰り広げる

# シンガポール 外国人が40%の国

- 1980年後半から高度人材受け入れに取り組む
- トップクラス層への永住権付与プログラム
- 政府機関「コンタクト・シンガポール」：情報のワンストップセンター
- 学生向けワークホリデイ・プログラム：世界トップ200に限る
- 好条件の就労機会、低い税率、科学者向けの奨学金
- 優秀な科学者を誘致し、バイオテクノロジーにおける世界的プレゼンスを向上（アメリカに次ぐ）
- 国民の不満：現在少し抑制傾向に

# マレーシア 国家高等教育戦略

- 2020年までに20万人の留学生を受け入れるという目標
- 学生交流の促進
- 大学院レベルの外国人留学生を対象とした政府奨学金の設立
- 中東諸国、アフリカ諸国からも留学生が増加（宗教が背景にある）
- 英語教育の充実は、トランジットポイントとなりうるため、さらなる高等教育の充実と、就業機会の充実を必要とする
- アジアの多様性を武器に、ツーリズムやアジアンビジネスコースが人気：着実に伸びてきている



# 終わりに

- 日本がこれから進む道筋
- ポスト留学生30万人計画

ご清聴ありがとうございました

# 参考文献

- 秋庭裕子 (2013) マレーシアの教育事情 留学交流ウェブマガジン
- 岩崎薫里 (2015) 日本における外国人留学生誘致策 環太平洋ビジネス情報
- 岩崎薫里 (2015) シンガポールの外国人高度人材誘致戦略 環太平洋ビジネス情報
- 杉村美紀 (2008) アジアにおける留学生政策と留学生移動 アジア研究Vol. 54
- 文部科学省 (2018) ポスト留学生30万人計画を見据えた留学生政策について
- 松本英登 (2015) 留学生をめぐる政策の展開と第gカウにおける輸出管理・無形技術移転管理の徹底に向けて CISTEC JOURNAL
- 他